

安楽寺寺報

聞光

第82号
涅槃会号
2017/2/15

発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
TEL0823-21-7561

共命鳥の教え

信楽晃仁

今年は酉年。頂いた年賀状には鶏を始め、たくさん鳥のイラストが印刷されていました。その中、鳥は鳥でも、共命鳥という仏典に出てくる鳥のイラストが入った年賀状をいくつか頂きました。酉年ならばお釈迦さまの説かれた鳥を意識して一年を送りたいと思います。

この共命鳥は安芸教区のシンボルでもあり、ご存じの方も多いかと思えます。安楽寺の内陣の正面にある前卓という金色の机の正面にも、その鳥の姿が彫刻されています。この鳥については、安芸教区のホームページには次のような解説がなされています。



『阿弥陀経』に浄土に住む鳥の名前が六つ出てきます。その中に「共命之鳥」といって美しい羽毛をもち、きれいな声で鳴く鳥がいます。体が一つで頭が二つある奇妙な鳥ですが、大切な法を説いています。多くの共命の鳥の中でも、とりわけ素晴らしい鳥がいました。しかし、二つある頭のいずれもがわたしの頭の羽毛は比類なく美しく、声も世界一美しいと確信し主張し合いました。そして互いに憎みあい争うようになり、遂には片方をさ亡きものにすれば、この私が世界一になれると考えるようになり、ある日密かに毒を混ぜ、片方に食べさせました。食べた方はもちろん死にましたが、食べさせた方も体が一つです。死んでしまいました。

この愚かな事件があったから、お浄土の共命の鳥は、他を滅ぼす道は己を滅ぼす道にすぎません。野菜につく虫を殺すために、殺虫剤や農薬を使います。それによつて虫のつかない、きれいな野菜が店頭並び、私たちはその野菜を買って食すわけです。虫を殺す薬剤のついた食べ物が、私たちの身体にいいはずが有りません。他の虫や動物の命を顧みないと言うことは、それは実はず分の命をも危険にさらしているのです。このところAI(人工知能)がい

たる所で話題になります。科学の進歩により人工知能が進化して、人間に取って代わります。将棋や囲碁やチェスでも人間が強いが、人工知能の方が強いかと競い合っています。しかしいずれ近いうちに人間は人工知能に勝てなくなるというわれています。巷にもどんどんと進出しています。ホテルでは、人工知能ロボットがフロントにいるところも出てきました。家庭にも色々な形で進出しています。炊飯器や電

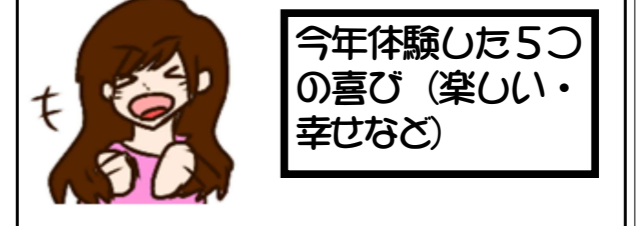
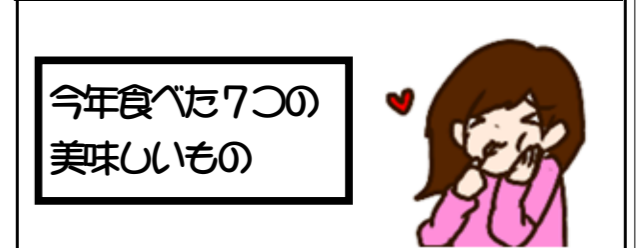


一枚の写真

今年の御正忌報恩講は、親鸞聖人御一代記を安藤丸一さんに琵琶で弾き語って頂きました。親鸞聖人の御一生の語りを聞きながら、響く琵琶の音は格別でした。琵琶法師のお話は昔から聞いていましたが、本物の琵琶を見たのは初めてのことでした。この音は日本人の心に響く音色を持っているのではないかと思います。和楽器の良さを思うことです(K)

安楽寺マンガ通信

その33 信楽めぐみ作



心に残る言葉 信楽慧

「明日死んでもいいくらい、本気で生きてみる」

これは僕がインターン(就業体験)で働いていた会社で、上司に言われた言葉です。この言葉を言われて、改めて自分の生活を振り返って見ました。するととても必死に生きているという状態ではありません。その時は必死に生きていない今をもったいたく思い、いい人生だったと死ぬことはできないと思いました。

そこで、「死んでもいいくらい、本気で生きる」という言葉のもつ意味について考え込んでしまいました。

するとこの言葉はそれぞれの死生観をもとに二つの受け取り方ができると思います。一つには、死んだら何もかもおしまいなんだから、生きているうちにできることをやっておかないともったいないという事。また一つには「死」と「生」を同等にとらえ、本気で生きるということは、死をもその精一杯の生の中に含んで生きていける、本気で生きるということは、本気で死んでいけるということでしょうか。そんなことを考えました。

必死に生きるとは、必ず死ぬものが生きているとも読めます。死を覚悟した生というのが大切なのかと思います。中々必死に生きられない僕ですが、これからこの言葉を忘れないように、自分の人生を生きていきたいと思ひます。

伝灯奉告法要団体参拝ご案内

本願寺のご門主の代替わり法要である伝灯奉告法要が京都本願寺でお勤めされています。先般ご案内を致しましたが、安楽寺の参拝日程が変更になりました。もしご都合がつかれる方がいらっしゃいましたら、是非一緒できればと思います。下記の通りの計画となっております。詳細は安楽寺に置いてありますので必要な方はご連絡下さい。

日時 平成29年4月26日(水)～28日(金)
行程 呉→京都本願寺→四国(鳴門) 全行程バス
旅費 63,000円
切 平成29年3月11日(土)

編集後記
三月末には新しい園舎が完成致します。子ども達が楽しんで育つことのできる新園舎です。またお寺にお参り頂く皆様にも本堂からバリアフリーでトイレに行きやすいように整備されています。是非多くの皆様に安楽寺へお参り頂ければと思います。若院が思う写真が撮れず、今回「心に残る言葉」という一文を送ってきました。ご笑覧頂き、今後ともお育て頂ければ幸いです。もう少しで春らしくなると思ひます。皆様ご自愛下さい。合掌 (K)

子レンジ、掃除機等々。どの機械もひよつとすると人間以上にしゃべります。炊飯器はご飯が炊けると「炊けました」お掃除ロボットも充電が少なくなると「おなかすいた」動けなくなると「うごけないうごけない」と訴えるそうです。最新お掃除ロボットなどは部屋の隅を掃除して、一度通ったところは二度と通らないという知能を持っているそうです。偉いものです。また最新の電子レンジは、冷蔵庫の中の残り物を言えば、何が作れるか、どうすれば作れるかを提示して、その指示通りすれば、その料理ができるそうです。自動車も自動運転と、何から何まで人工知能のオンパレード。しかしこれも喜んでばかりはられません。

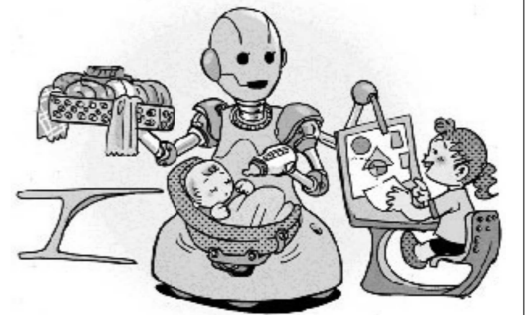
一つには、人間がする仕事を人工知能が変わってやってくれるようになり、3Kといわれる「きつ」「汚い」「危険」な仕事もいやがりません。着々とこなしてくれそうです。人間はその3Kの仕事から開放されますが、その3Kの仕事だけではなく、十年後には人間の仕事の半分をロボットがするとい



う報告もあります。楽ちん楽ちんと思われませんか。人間の仕事を、人工知能がするようになるでしょう。人工知能は人間のように文句は言いません。仕事は間違ってもなく、与えられた仕事を黙って着々とこなします。その時人間の仕事はなくなってきたり、働かなければ給料は入りません。さて仕事をせずに人間は何をして暮らすのでしょうか。

「2045年問題」といわれていますが、人工知能が人間を超える年だということです。人間の仕事もこのまま人工知能がどんどんと進化していけば、あらゆる面で人間を超えてしまうであろう、といえます。そして人間を超えた知能を持った人工知能は、もつと高度な人工知能を開発するといえます。さてその人工知能が人間を超えた時が問題です。

今まで人間は地球の支配者のごとく振る舞ってきました。まるで神のごとく全ての生物の生殺与奪の権利を持っているかのように思っていたころがあったのでしょうか。しかしその人間よりも優れた人工知能が表れた時、その人工知能が今まで通り人間の言うことを聞いて、人間の思う通りになると思われますか。それを心配している科学者もたくさんいます。その一人ホーキング博士も「完全な人工知能を開発できたら、それは人類の終焉を意味するかもしれない」と言っています。人間が支配していたと思っていたこの地球。その支配的立場が人工知能になった時、その人工知能は何を考えるのか、です。人工知能であろうとも、この地球なくしては存続していきません。その時にこの地球を長く残していくために、一番この地球を危機に陥れていく生物は何かと考えます。その時に一番に名前があがるのが「人間」だそうです。他のどのような生物も、地球の存続を危うくする程の生物はどこにもいません。この地球の環境を悪化させ、地球も生



物も生きていくことが出来ない程毒性の強い物質を処理することも考えずに使いつつ、あるいは同属同士で国と国に別れて、殺し合いをし、そのあげくに地球を死の星としかねない核爆弾をも打ち込む装備を整えている国がどれほどあるのか。その被害を唯一受けた日本が、核保有に反対できないという状況は、どう考えても、また最も正しい答えをはいき出す人工知能にとっては理解できない生物ではないでしょうか。

科学の進歩こそ人間の幸せを実現するものだと思います。人工知能が人間が、その科学によって滅んでいくかも知れないのです。なぜそのような事になるのか。それは煩惱を主として生き、欲望を満たすことこそが幸せだとは勘違いして生きてきた報いと言えるのではないかと思います。

今からでも遅くはありません。私たちの生き方をそして私たちの命を見直して見るべきです。仏教にはその煩惱が問題なのだとして既に2600年前から警告されているのです。私たち人間が振り返る最後のチャンスが今なのかも知れません。西年の共命鳥はそんなことを伝えているように思っています。

お念仏のしずく

「私が捨たる」

聞法とは、その聞法において、自分自身が捨たつてゆくということでもあります。聞法ということさえも、その聞法において捨たられてゆくべきであって、聞法ということが、何らかの功德、価値をもつものとして、自分の心の中に残っているかぎり、それはまことの聞法にはなりません。聞法において、聞法もまた徹底して捨てられてゆく時、ここにこそ、まことの聞法が成立してくることとなります。浅原才市さんが、



「聞いた心は玉にきず」であって、仏法を聞いた、よく聞いたという心にとどまっているかぎり、それはまことに聞いたということではありませぬ。「それは疑い自力なり」「領解たのんで弥陀をたのまらん」というのであります。まことの聞法とは、それにおいて、徹底して自分自身が捨たつてゆくことであって、それはまさしく、法にとられてゆくことにほかならないわけでありませぬ。

聞いた心は玉にきず
それがちがえば無間地獄よ

それは疑い自力なり

よく聞いた聞いた心は玉にきず
領解たのんで弥陀をたのまらん

まことに親鸞聖人における聞法とは、どこまでも私自身による聞ではなく、ひとえに「仏よりたまりたる聞」ともいふべきものでありませぬ。真宗における仏法の聞き方の要がここにあるわけでありませぬ。

『この道をゆく』

安楽寺法要案内

三月	彼岸会	日時 3月11日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 府中 龍仙寺 武田一真先生 講題 「かならず」ということ
四月	花まつり	日時 4月9日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 東広島 明宝寺 藤井晃先生 講題 人生~なぜ私たちは 苦しむのでしょうか~
五月	降誕会	日時 5月13日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 三次 西念寺 小武正教先生 講題 私は何のために 生まれてきたのでしょうか
六月	永代経法要	日時 6月10日(土)・11日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 大崎上島 浄泉寺 加藤一英先生 講題 信心~ただこのことひとつ~

暮らしの中の仏教語



「えこひいき」とは「依怙」と書き、仏教語で「頼りにして依りかかること」またその相手のことです。『法華経普門品』には「観世音浄聖は苦惱死厄に於て、能く為に依怙となれり」とあります。観音様は苦しみ悩んでいる時や、死に至るべき災厄などに襲われたとき、その名を唱え念ずれば、必ず救いの手をさしのべて下さる。という言葉だそうなんです。

依りかかってこれれば、観音様ならずとも、そのものに眼をかけた面倒を見てやるようになるのが人情ですが、観音様は平等の慈悲によつて全ての「えこひいき」するものを助けようと思えます。それに対して人間は、不公平な救いしかできません。それを「えこひいき」といったさうです。文部科学省の天下り問題を始め、政治の世界もどこもかしこも「えこひいき」だらけです。所詮不平等な人間のやることですが、大人が襟を正さないと、その姿を子どもは見えています。